

MONTHLY-J

マンスリーJ

1・2月合併号

2009 JANUARY・FEBRUARY

GAPの標準化を目指し 躍進する2009年に

新年あけましておめでとうございます。日本GAP協会は前身であるJGAI協会から現在のNPO法人に組織変更し、3年目を迎えました。2008年6月に発足した第3期体制からは、業界の垣根を越えた全19名の理事と監事が就任しています。今回はそのうち15名の理事から、新年を迎えての抱負をお聞きしました。

今こそGAPの時代 自信を持って 取り組んでほしい

第3期 理事長 高橋政行



2008年12月10日に行なわれた理事会。前列中央が高橋政行理事長。

2008年、世界GAP大会がドイツのケルンで開催されました。その会議の様子を聞きまして、GAPは世界各国が取り組む必要のあるものになりつつあるという、大きなうねりをひしひしと感じました。わが国がこの動きに乗り遅れることがあっては、農業の国際化が進む中で取り残され、ますます外国農産物に国内市場を奪われることが心配になります。

わが国の農産物が安心できる農場で作られたものであることを、消費者が実感できる体制を作っていく必要があります。JGAPは消費者の期待に応えられるものであると確信しています。生産者がJGAPに適合した管理のもとで農産物を栽培していることに誇りを持ち、流通側もその農産物を消費者に届けていることに自信を持てるシステム作りを努めていきたいと考えています。

今こそGAPの時代です。自信を持って、GAPに取り組んでほしいと思います。